

**ブドウ茎頂培養における培地組成及び  
置床時期が外植体の生育に及ぼす影響**

十鳥秀樹・渡辺二郎・清水康司\*

ブドウの茎頂培養における培地の寒天濃度,基本培地の種類,添加サイトカイニンの種類と濃度及び茎頂の置床時期が外植体の生育に及ぼす影響について検討し,次のような結果を得た。

1. 培地の寒天濃度 0.3%と 0.6%を比較したところ,外植体の生育は 0.3%の添加の培地の方がやや良かったが,置床等の操作性に難点があるため,総合的には 0.6%が適当であると判断した。
2. 基本培地の種類は,Murashige-Skoog 培地の鉄成分を除く無機塩濃度を規定量の半分としたもの(1/2MS)が適当であった。ハイポネクスを主体とした培地および変更 Holley&Baker 培地では 1/2MS 培地に比べて外植体の生育が悪かった。
3. 添加するサイトカイニンは,ベンジルアデニン 1 mg/ℓまたはゼアチン 3 mg/ℓが適当であり,カイネチン及び 2iP の添加効果はベンルアデニン及びゼアチンに比べて劣った。
4. 台木品種“1202”及び“3309”の置床時期は,9~10 月より 6 月置床の生育がよかったが,“テレキ 8B”は 9 月が 6 月置床に優った。このことから,最適な茎頂置床時期は品種によって差があり,各品種ごとに検討する必要があると考える。